

付加体形成モデル実験における物性異常層でのデコルマ面の形成

Analogue model experiments of accretionary prism; formation of decollement at low friction layers

山田 泰広 [1]; 長村 直樹 [2]; 松岡 俊文 [3]

Yasuhiro Yamada[1]; Naoki Nagamura[2]; Toshifumi Matsuoka[3]

[1] 京大・工・社会基盤; [2] 京大・工・社会基盤; [3] 京大・工・社会基盤

[1] Civ. Earth Res. Eng., Kyoto Univ.; [2] Civil and Earth Resources Eng., Kyoto Univ; [3] Kyoto Univ

<http://earth.kumst.kyoto-u.ac.jp/yamada/>

プレート沈み込みに伴って海洋底堆積物が付加する際にはデコルマ面と呼ばれる水平すべり面が形成される。堆積物中には通常複数の物性異常層が存在するため、これらの存在がデコルマ面形成を規定している可能性が高い。今回は付加体形成過程をモデル化した実験を行って、堆積物中に物性異常層が狭在する場合にデコルマ面形成がどのように規制されるか検討した。実験の結果、低摩擦層が存在する場合には他層準に形成されていたデコルマ面が活動を休止し、この層に移行することなどが観察された。